



祐介の目

No.116

大田祐介 (福山市議会議員)

キングオブスポーツ

人で滑るようになっている。私が会長の福山山岳会で山スキー・ボード愛好者によるバックカントリースキーを催行しているので、興味のある方は連絡をいただきたい。比婆山(1264m)や深入山(1153m)は入門用の山と言える。

本誌の「私の趣味」欄の反響が大きいそうだ。そこで私も趣味のバックカントリースキーを紹介したい。スキー場を滑るだけでなく、滑走面に滑り止め「シール」を貼れば雪山を登ることができる。頂上でシールを剥ぎ、誰も滑っていない大斜面を独り占めするのがバックカントリースキーの醍醐味だ。私は畏れ多くも日本三霊山の富士山(3776m)、立山(3015m)、白山(2702m)のすべての頂上からスキー滑降した経験がある。近隣なら大山は何度も頂上から滑ったし、32歳の時の冒険スキーヤー和田好正氏とのボリビアのチャカルタヤ(5400m)滑降は忘れられない。いずれも頂上直下は40度程度の斜度がありスリル満点だ。

探検家でありノーベル平和賞を受賞したノルウェーのフリチヨフ・ナンセンは「あらゆるスポーツの王者の名に値するスポーツがあるとすれば、それはスキーである。スキーほど筋肉を鍛え、身体をしなやかに弾力的にし、注意力を高め、巧緻性を身につけ、意志を強め、心身を爽快にするスポーツはほかにない。晴れ渡った冬の日にスキーをつけて森の中へ滑走してゆく……これにまさる健康なそして純粹なものが、ほかにあるだろうか。深々と雪におおわれた森や山のすばらしい自然にまさる清純高貴なものが、ほかにあるだろうか。」と、スキー讃歌を記している。100年前のスキーと言えば当然バックカントリースキーに違いないだろう。

今年に残雪豊富なので俗世間の雑踏から離れ春山でスキー讃歌を謳歌したいところだが、なかなか思うように時間が取れないのが残念だ。

もちろん危険もある。雪崩に巻き込まれる事故が最たるもので、常に電波発信機(ビーコン)を身に着け、必ず複数